

歴史上最も成功した会社はいかにその地位を得たのか

17世紀を通じてVOCの3文字のモノグラムは世界で最もよく知られたロゴでした。これはVerenigde Oostindische Compagnie（オランダ東インド会社）の頭文字で歴史上最も利益を生んだ会社と考えられています。1602年に設立され急成長するスパイス市場を独占しアジアとヨーロッパを結ぶ交易路を開拓しましたがその成功の裏で多くの命が犠牲になりました。

オランダがこの会社を作った時アジア地域で交戦や外交や植民地化を行う権限を与えました。アジア地域で交戦や外交や植民地化を行う権限を与えました。オランダ東インド会社は他のヨーロッパ列強と競って戦い儲けを上げることを意図されていたのです。

アジアは当時最大の市場でスパイスにはヨーロッパ全体で大きな需要があり中でもナツメグは特に貴重なものでしたがインドネシアのバンダ諸島でしか栽培されていませんでした。オランダ側でナツメグを独占的に管理できれば投資家を潤わせ会社の長期的な存続を確実にしライバルを蹴落とすことができますがこの計画にはバンド諸島民の服従が必要でした。これはヤン・ピーテルスゾーン・クーンのような東インド会社の情け容赦のない上層部がどんな手段を使っても確保したいものでした。

1万5千ほどの島民が暮らすバンダ諸島は村々の連合で構成されオラン・カヤと呼ばれる豊かで交易に長けた者たちが支配していて何百年もの間ナツメグの独占を維持し一番高値を付けたアジアやヨーロッパの商人に売っていました。

1600年代の初めにオランダ東インド会社がやってくるとオラン・カヤたちに協定への署名を求めました。それはナツメグの独占権と引き換えに安全を保障するというものでした。バンダの指導者たちは以前にも同様の取り決めを結んだことはあり破ったところで問題のないものでしたがオランダは新たな脅威をもたらしました。交易を管理し密輸を防ぐために砦を築こうとしていてナツメグを全て安値で自分達に売ることを求めたのです。バンダ人の多くがこれを拒み関係は悪化していきました。1609年には一団の村民がオランダの提督と40人の部下を待ち伏せして殺害しました。その後10年で協定が破られてはまた結ばれ緊張が高まりました。

東インド会社とその総督のヤン・ピーテルスゾーン・クーンは新たな戦略を考え始めました。「バンダ人は道理をわからせるか皆殺しにするかしなければならぬ」とある者は書いています。クーン自身は貿易に戦争は付き物だと考えていました。1621年に上からの承認のもとクーンは大規模な侵攻を行いバンド人の指導者たちに新たな協定へ署名させましたが今回はバンド人を主権者とは認めず東インド会社の被植民者としました。

その後オランダ人に対する 陰謀ありとの報告があり クーンはそれを利用して 抵抗を潰しました。クーンはバンド人指導者たちを拷問させ 告白を強要しました。その後の数ヶ月で 残忍な作戦が遂行され 人口が激減しました。バンド人の多くが 飢え死にし あるいは 奴隷にされ 遠くのオランダ植民地に送られました。降伏するよりは 断崖から 飛び降りることを選ぶ者もいました。何千もの人が逃げ出して 村が無人になり 生き残った者は 他の島に移り住み バンドの言語と文化を繋ぎました。

東インド会社の暴力的な作戦が 終わった時 人口は千人以下にまで減り その多くは奴隷にされました。東インド会社はバンド諸島を プランテーションに変えて 奴隷の労働者を持ち込みました。どう見てもこれは ジェノサイドでした。ナツメグの世界的独占を 確保することで 東インド会社は 経済的な成長を加速させ オランダの黄金時代を 支えました。批判はあったにせよ クーンはオランダの英雄として 20 世紀まで讃えられていました。バンドの虐殺から 400 年が経ち ホールン市のクーン像には 撤去を求める声が高まっていますが 未だ立ったままです。クーンと東インド会社は 貴重な産物を支配して 莫大な利益を上げましたが それは他の社会を暴力的に破壊することで 成し遂げられたのです。